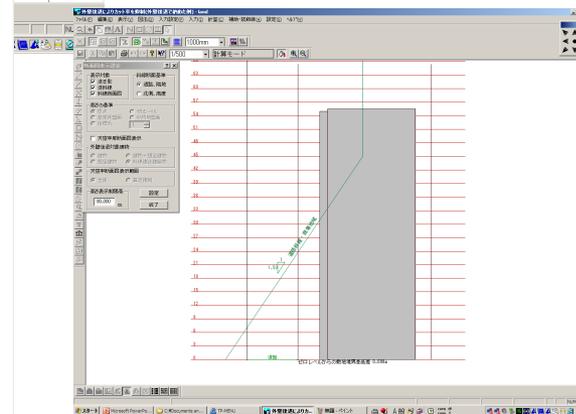
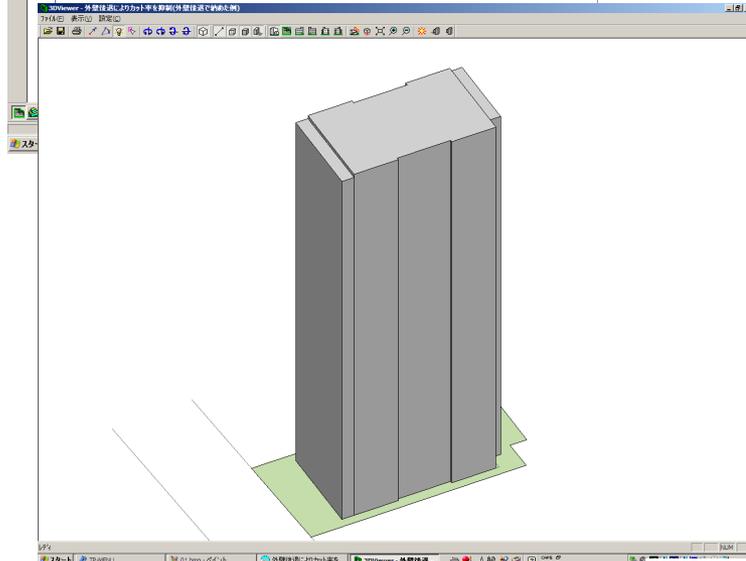
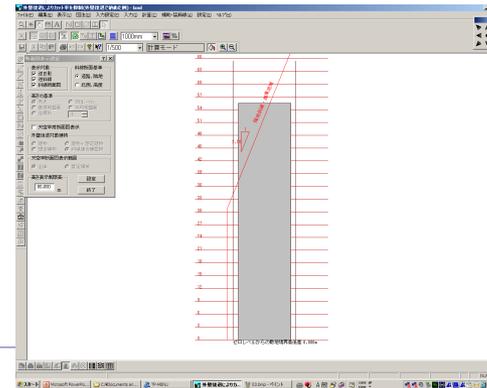
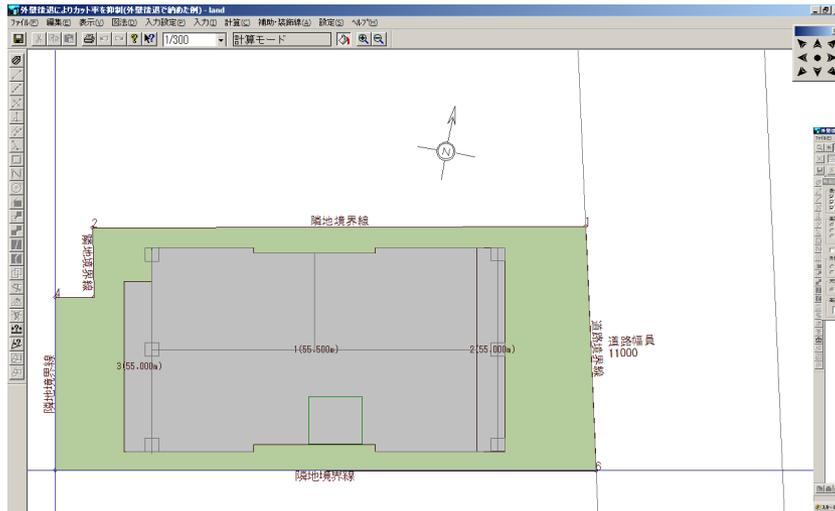


逆天空率と最適外壁後退距離の設定法

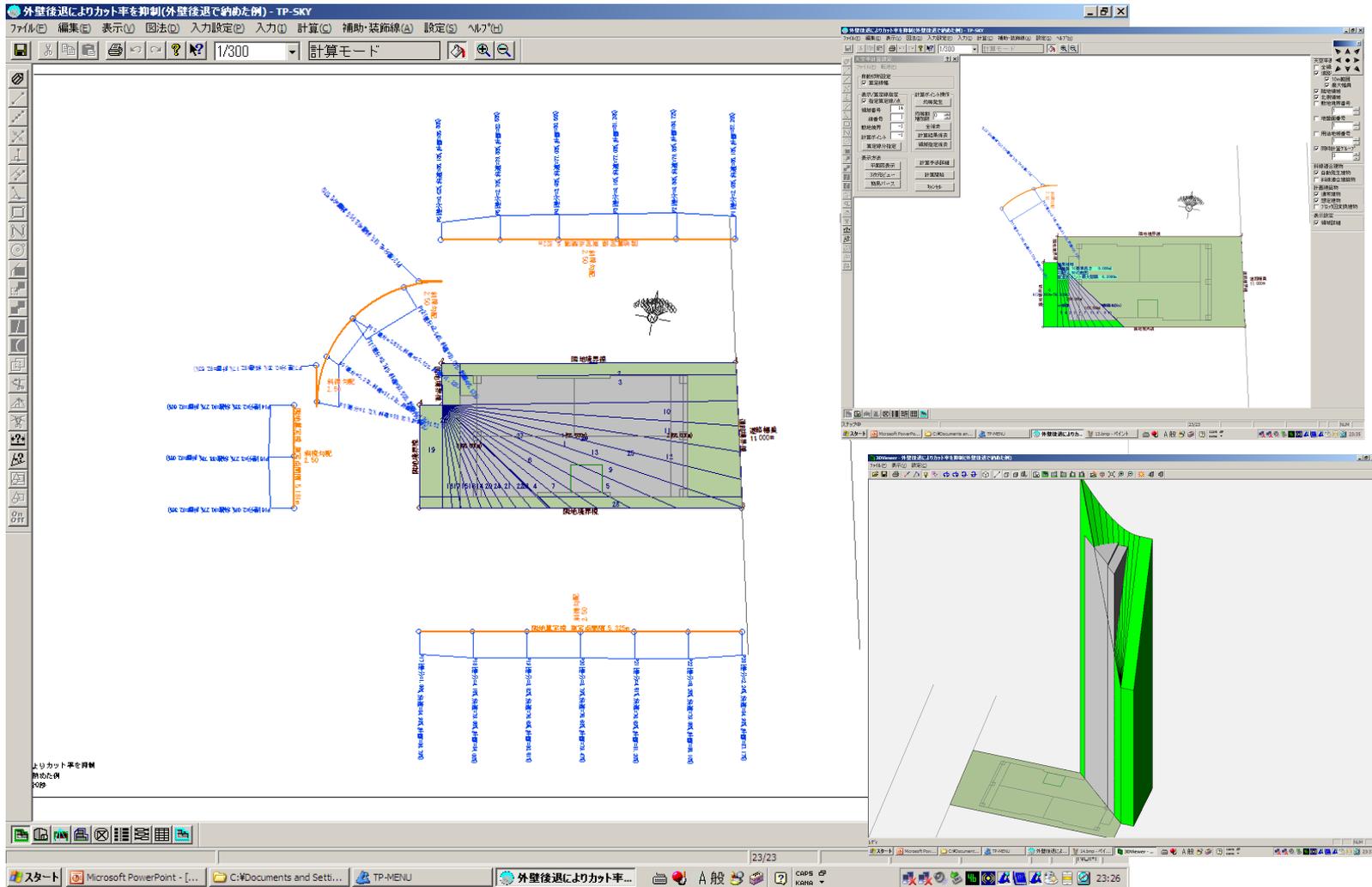
さらに詳しく知りたい方は[コチラ](#)をクリック



学習のポイント

- ①逆天空率計算の設定方法
- ②天空率計算でNGの場合逆天空率で建物形状をカットする前に最適外壁後退距離を算出する手法および考え方をマスターする。
- ③天空率比較図で天空率計算の差分を視覚的に理解する。

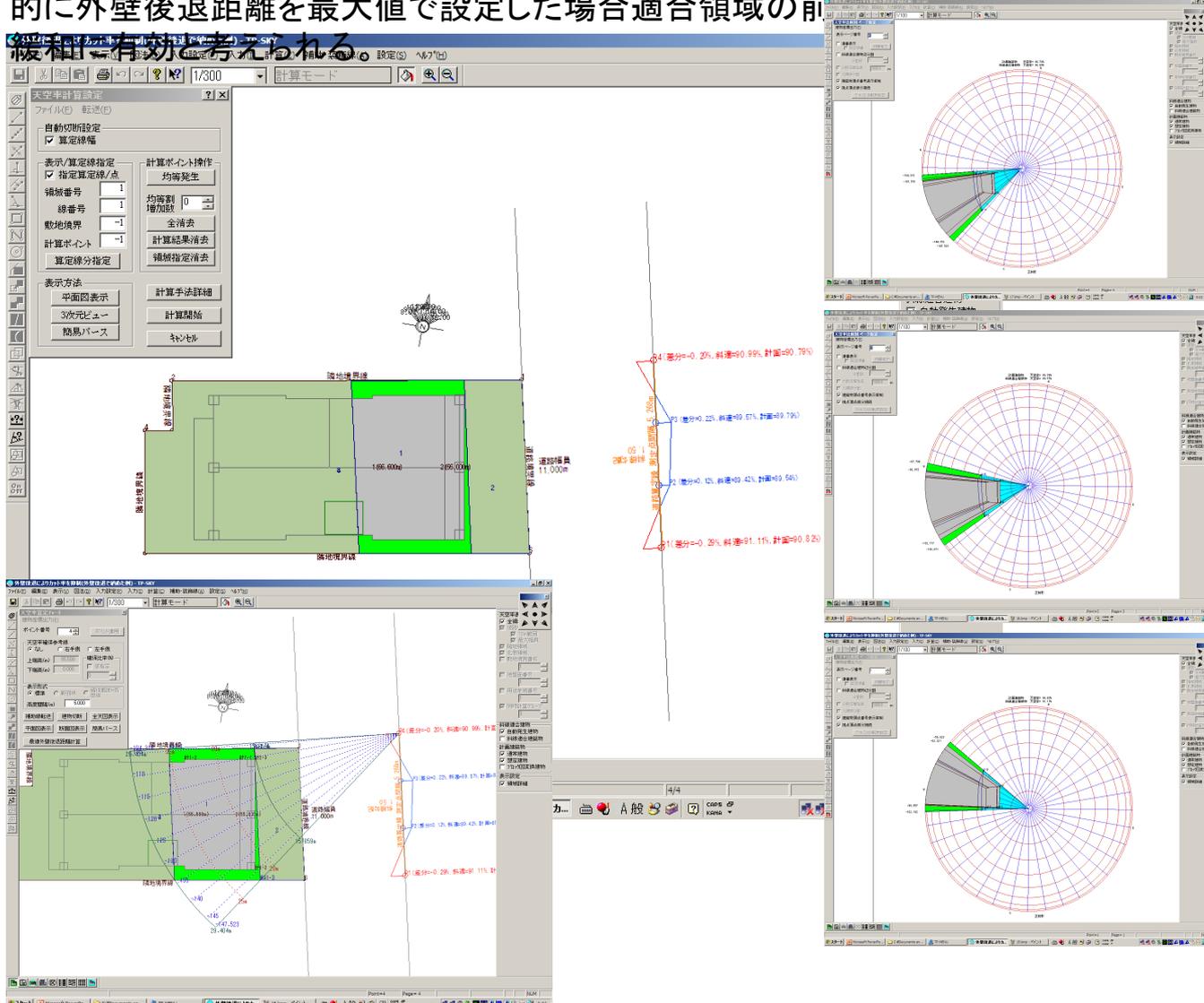
1 隣地斜線を天空率計算で緩和する。



* 商業地の隣地は31mまでの緩和がありその適合の領域が天空を大きく遮蔽する為天空率の利用メリットは大きい。

2道路斜線を外壁後退距離を計画建築物外壁後退距離と同等の最大値に設定する

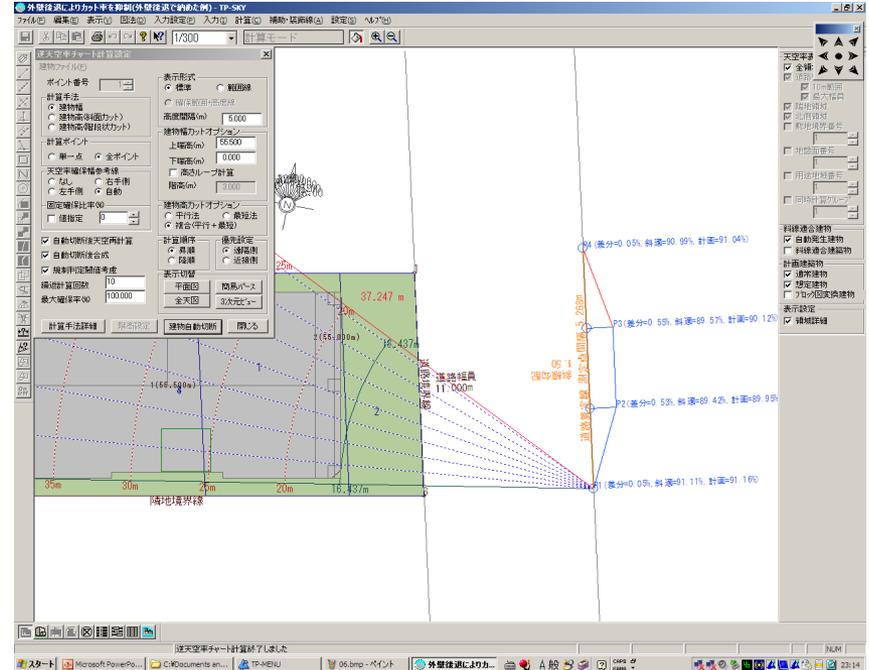
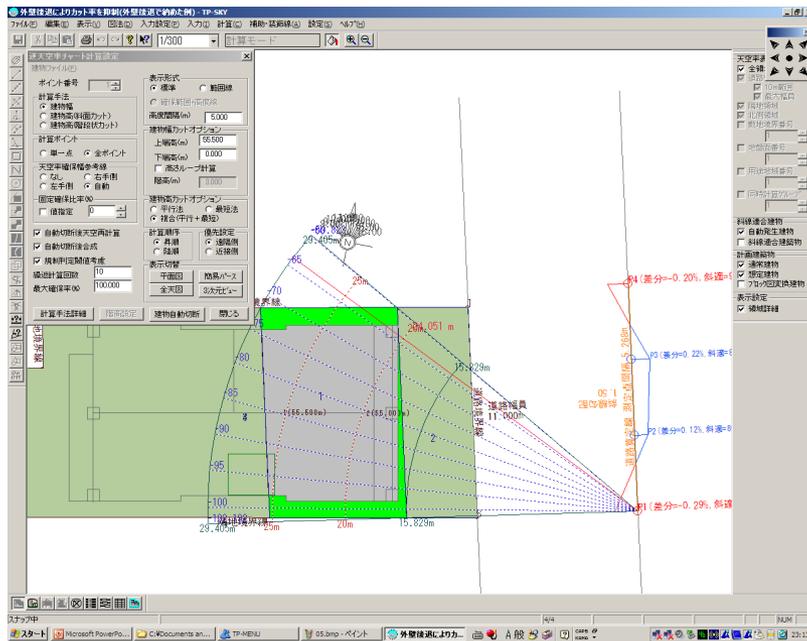
○
適合領域の外壁後退距離は計画建築物の外壁後退距離を最大としその範囲内での設定が可能です。一般的に外壁後退距離を最大値で設定した場合適合領域の前方空地が狭くなり天空率が下がり斜線規制の緩和と有効と考えられる。



天空率において特徴的な事例だが両端の算定位置がNGとなっている。これは端部の算定位置では計画建築物の側面が視野角に入る為天空を遮蔽する率が高い事と反対側の端部の空地が遠方になる為天空の遮蔽率が低くなり適合建築物の天空率が大きくなる為などが考えられる。

3逆天空率を行い建物形状をカットし必要差分を確保する。

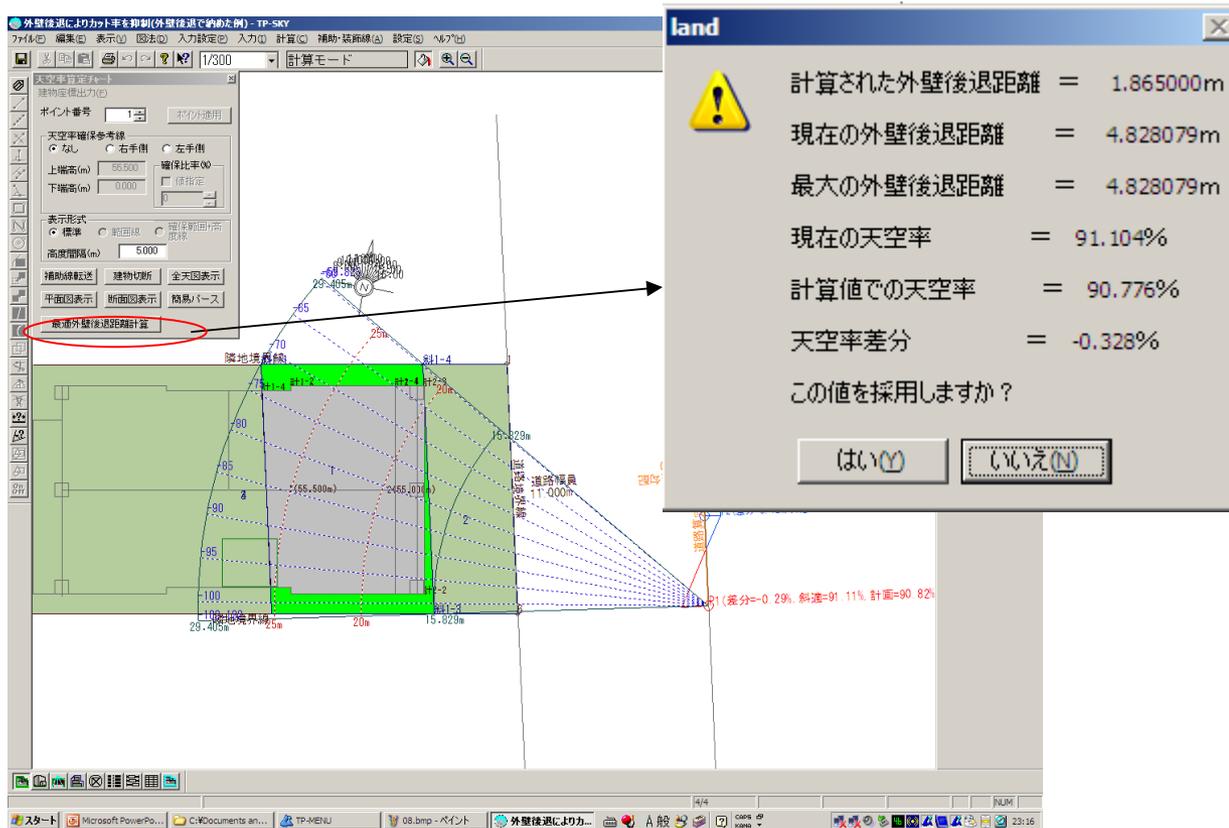
「計算」「逆天空率チャート」で建物をカットする。主な指定項目は「計算手法」→「建物幅:「計算ポイント」→「全ポイント」:「自動切断後天空率再計算」をチェック「繰り返し計算階数」→「5回以上の指定」などを指定し「建物自動切断」ボタンをクリックすると天空率差分を指定幅(初期値0.05)に達すまで建物切断を自動処理する。



* 結果的にバルコニーの両サイドを切断する事により差分を確保した。ただし設計者の意図する柱位置の設定がこの処理の場合不可能となる。

4逆天空率を行う前に最適外壁後退距離を算出する。

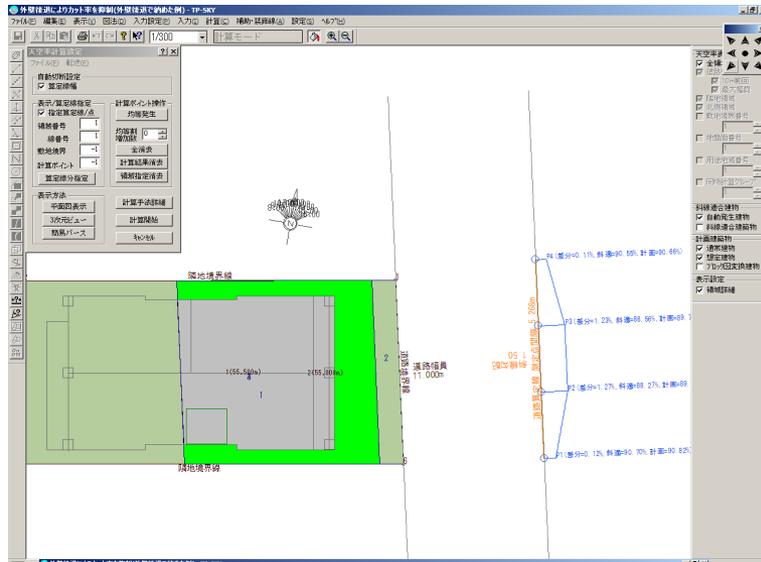
「図法」「天空率算定チャート図」には最適外壁後退距離を逆算する事が可能です。



計算の結果4.828079mの外壁後退距離を1.865mに設定した場合適合建築物の天空率が91.104%から90.776%に0.328%低下する事がわかります。

5 逆算された外壁後退距離を採用した算定領域および算定線を発生します。

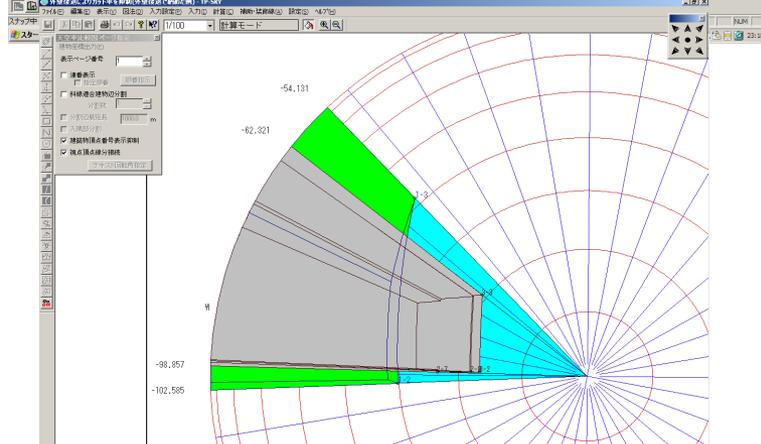
「入力」「天空算定領域」で現在の算定領域を削除し再発生します。「計算」「天空率計算」で算定ポイントが発生し天空率計算を行います。



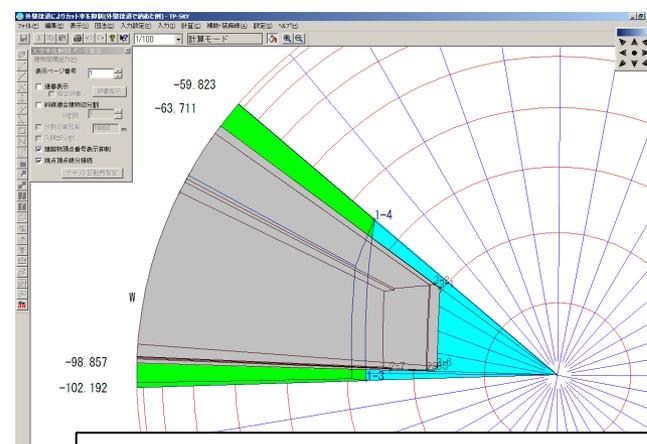
最適外壁後退距離を設定し天空率計算を行うと建物形状を切断する事なく天空率差分を確保する事が可能になりました。

結果の考察

最適外壁後退距離を採用した適合建築の場合天頂方向の高さは低くおさえられているが幅が5度強拡大している事がわかります。その為、天空率が0.328%減少しています。最大外壁後退距離では計画建物の側面をカットする事により天空率の差分を確保した事がわかります。



最適外壁後退 差分0.12% 斜適90.7% 計画90.82%



建物切断 差分0.05% 斜適91.11% 計画91.16%